

「遺伝子・染色体構築セミナー」を開催

2014年12月3日

12月3日(水)にがん進展制御研究所4階会議室において、徳島大学 疾患プロテオゲノム研究センター ゲノム制御分野 教授 片桐豊雅先生を迎え、「新規エストロゲンシグナル制御機構の発見と新規乳がん治療薬開発を目指して」と題して、がん進展制御研究所遺伝子・染色体構築セミナーを開催しました。

セミナーでは、乳がん細胞におけるBIG3を介したエストロゲンシグナルへの負の制御機構に関する新知見についてご発表いただきました。さらに、生化学的なメカニズム解析に加え、蛋白間結合を阻害することによる革新的がん治療開発へのユニークなアプローチについてご紹介いただきました。

セミナーには、所内外の研究者並びに大学院生ら約40名が参加し、非常に活発な質疑応答や意見交換が行われ、貴重な情報を得る有意義なセミナーとなりました。



遺伝子・染色体研究分野セミナー

新規エストロゲンシグナル制御機構の 発見と新規乳がん治療薬開発を目指して

徳島大学疾患プロテオゲノム研究センター
ゲノム制御分野・教授

片桐 豊雅 先生

【日時】平成26年12月3日(水) 17:00～18:00

【場所】がん進展制御研究所 4F 会議室

片桐先生は、乳がんにおけるエストロゲン受容体（ER）制御機構およびERを介した細胞増殖機構の解明に取り組まれています。これまでに、網羅的遺伝子発現解析を通して、新規エストロゲンシグナル制御分子や（Int J Oncol. 2004;25:797-819、Cancer Sci. 2009;100:1468-78）、がん抑制因子の機能喪失機構を介した新規エストロゲン依存性乳がん細胞増殖機構を発見されています（Nat Commun. 2013;4:2443）。

本セミナーでは、これらの新たなER制御機構と新規治療薬開発の可能性についてご紹介いただきます。皆様奮ってご参加ください。

連絡先：平尾（がん進展制御研究所 遺伝子・染色体研究分野(内線6756)